

12月

園だより

令和2年11月26日
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育 12月のねらい」

にんにくじきゅう
忍辱持久

「with コロナ」

園長 佐藤 和順

今年も残り1ヶ月となりました。新型コロナウイルスに振り回された年といっても過言ではないでしょう。コロナ禍の中で始まった新年度は、間もなく休園をせざるを得なくなりました。新入園児や進級した園児たちと共に過ごせなかった日々は教職員にとっても残念な日々でした。園が再開してからは、新しい生活様式での園生活が始まりました。保護者の皆様には、園児の健康管理に特別なご配慮をいただき、また園での行事の取り組み、園生活の送り方についても多大なるご理解とご支援をいただいていること、本当に感謝しております。この状況がいつまで続くかはわかりませんが、必ず良い方向になると信じ、今年最後の月を元気に過ごしていきたいと思えます。

さて、今月の保育目標は「忍辱持久(にんにくじきゅう)逃げ出さず試練に立ち向かう」です。「忍辱」とは、忍耐すること、辛抱すること。「持久」とは、長い時間持ちこたえること、目的に向かって心を合わせ努力することです。私たちは生きていく間に大なり小なり辛い事や苦しい事に出会います。しかし、逃げ出さず、自分に与えられた試練と受け止めて努力を重ねたなら、心は確実に鍛えられ、向上するに違いありません。また決して諦めず、目標に向かって努力を重ねていくことで人間的に大きく成長することを目指しましょうということです。まさに今の時代に必要な態度かもしれません。

生きていく中でいろいろな困難に出会う。それは子どもも同じです。特に集団生活である園の中では自分の思うとおりにいかないことや、我慢しなければならないことが多くあります。大人にとっては何でもないことでも、人生経験の少ない子どもにとっては一大事です。その際には、場面に応じて譲ることや辛抱すること、時にはしんどくても励まし、最後までやりきることの大切さを子どもと一緒に考え、伝えていきたいと思っています。

先月のこの欄では、失敗を先回りして大人が回避しないこと、子どもを信じて待つことの大切さについて述べました。困難や辛抱、努力もまた同じです。楽しいことばかりでなく困難に出会うことも子どもにとっての大切な学びです。ただそこに必要なのは自分で解決できない事案が出た時には、「いつでも頼っておいで」「いつも見守っているからね」という保護者と子どもの、また、保育者と子どもの信頼関係です。

忍耐の先には必ず喜びが待っていると信じ、日々忍辱持久に努めたいものです。

